

令和4年度『全国学力・学習状況調査』 座間市立小・中学校全体の結果と傾向

国語・算数・数学・理科・児童生徒質問紙からみた傾向

座間市教育委員会

令和4年11月

小学校 国語

本市の児童の調査結果（平均正答率）は、全国・神奈川県より下回る結果となりました。

全国・県よりも、◇はよいと思われるところ、◆は課題であると思われるところ

○学習指導要領の内容および設問から見た傾向や課題

〔知識及び技能〕

言葉の特徴や使い方に関する事項

◇言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えることにおおむね良好な結果である。

◆学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことにやや課題がある。

〔思考力、判断力、表現力等〕

話すこと・聞くこと

◆互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることにやや課題がある。

書くこと

◆文章に対する感想や意見の伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることに課題がある。

読むこと

◇登場人物の相互関係について、描写を基に捉えることにおおむね良好な結果である。

◆表現の効果を考えることに課題がある。

【育てたい力】

日常生活における人との関わりの中で伝えあう力を高め、思考力や想像力を育てたい。

伝えあう力を高めることで、人間と人間との関係の中において、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり適切に表現したりできるようにする。また、思考力や想像力を養うことで、言語を手掛かりとしながら論理的に思考したり、豊かに想像したりできるようにする。そうして育まれた思考力や想像力を新たな発想や思考を創造する力につなげたい。

○指導改善のポイント

[知識及び技能]

言葉の特徴や使い方に関する事項

○同じ部分や読み方をする漢字を注意して使う

- ・同じ漢字を繰り返し練習することにとどまらず、学習において感想や振り返りを書く場面や、日常生活において日記を書く場面などで漢字を使うことを意識した取組が必要である。その際、同じ部分をもつ漢字や同じ読み方をする漢字に注意して書くことを指導することが大切である。

[思考力、判断力、表現力等]

話すこと・聞くこと

○互いの立場を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる

- ・「考えをまとめる」とは、話し合いをとおして様々な視点から検討し、互いの意見の共通点や相違点、利点や問題点等をまとめることである。話し合った後で考えをまとめる際には、様々な視点から検討したことを踏まえて、自分の考えをまとめることが求められる。異なる意見を自分の考えに生かせるように、例えば「～という意見もあったが」、「～という考えもあるけれど」などの表現を用いられるようにすることが効果的である。

書くこと

○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける

- ・「共有」に関する指導事項の定着を図るためには、互いの文章に対する感想や意見を伝え合うことを通して、自分の文章のよいところを見付けることができるように指導することが重要である。自分の文章のよいところとは、第1学年及び第2学年では、「内容や記述などに見られる具体的なよさ」、第3学年及び第4学年では、「書こうとしたことの明確さ」、第5学年及び第6学年では、「文章全体の構成や展開の明確さ」などである。

読むこと

○表現の効果を考える

- ・第3学年及び第4学年の「エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること」と第5学年及び第6学年の「エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること」を系統立てて指導することが大切である。また、表現の効果を考えることができるようにするためには、感動やユーモアなどを生み出す優れた叙述、暗示性の高い表現、メッセージや題材を強く意識させる表現などに着目して読むことを指導すると効果的である。

小学校 算数

本市の児童の調査結果（平均正答率）は、全国・神奈川県より下回る結果となりました。

全国・県よりも、◇はよいと思われるところ、◆は課題であると思われるところ

○領域および設問から見た傾向や課題

数と計算

- ◆加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを式や言葉を用いて記述することに課題がある。

図形

- ◆正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、言葉と数を用いて記述することに課題がある。

測定

本年度は、「測定」領域から出題なし。

変化と関係

- ◆伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを式や言葉を用いて記述することに課題がある。

データの活用

- ◆目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることに課題がある。

【育てたい力】

数量や図形などについての基礎的・基本的な知識、技能と、それらを活用して課題を解決するために必要な数学的な思考力、判断力、表現力及び算数を生活や学習に活用しようとする態度を養いたい。

また、各問題の正答率から見ると、本市の児童は記述式の問題に対して課題があるため、言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、筋道を立てて説明したり論理的に考えたりして、自ら納得したり他者を説得したりする力を育てていきたい。

○指導改善のポイント

数と計算

○日常生活の問題を解決するために、数量の関係を式に表したり、式を読み取ったりすることができるようにする

- ・日常生活の問題を解決するために、問題場面の数量の関係に着目し、数量の関係を簡潔に式で表すとともに、式を読み取ったり、正しく計算したりすることができるようにすることが重要である。例えば、問題3（4）を用いて、輪投げのポイント数の求め方を解釈し、加法と乗法の混合した式を用いて、他の遊びのポイント数を求める活動が考えられる。

図形

○図形を構成する要素に着目し、図形の構成の仕方について考察して、改善することができるようにする

- ・図形の学習では、図形の意味や性質を基に、辺の長さや角の大きさに着目し、図形の構成の仕方について考察できるようにすることが重要である。問題4（1）のように、正三角形を作図できなかった場合には、試行錯誤しながら、回転する角の大きさを 120° にする必要があることに気付き、その理由を説明できるようにすることが大切である。

変化と関係

○伴って変わる二つの数量の関係に着目し、未知の数量を求めることができるようにする

- ・伴って変わる二つの数量を見だし、一方の数量に伴って他方の数量がどのように変化するかに着目して、未知の数量を求めることができるようにすることが重要である。例えば、伴って変わる二つの数量のデータを何組か集めて表に整理し、比例の関係を見いだす活動が考えられる。その際、一方の数量のみに着目するのではなく、二つの数量がどのように変わっているかに着目して比例の関係を捉え、未知の数量を求めることができるようにすることが大切である。

データの活用

○複数のグラフから目的に応じてグラフを選択し、必要な情報を読み取ることができるようにする

- ・目的に応じて、複数のグラフから適切なグラフを選択し、データの特徴や傾向を捉え、必要な情報を読み取ることができるようにすることが重要である。例えば、グラフから、割合が一番大きいもの等、必要な情報を読み取る活動が考えられる。その際、一つのグラフからではなく、複数のグラフの中から目的に応じて、グラフが何を示しているのかを読み取ったり、適切なグラフを選択したりすることができるようにすることが大切である。

小学校 理科

本市の児童の調査結果（平均正答率）は、全国・神奈川県ほぼ同程度の結果でした。

全国・県よりも、◇はよいと思われるところ、◆は課題であると思われるところ

○領域および設問から見た傾向や課題

物質

◆メスシリンダーという器具を理解し、正しい扱い方を身に付けることに課題がある。

エネルギー

◆実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述することについて課題がある。

生命

◆昆虫の体のつくりを理解することにやや課題がある。

地球

◆予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことについて課題がある。

【育てたい力】

自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事象・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力の育成を目指している。

そのような資質・能力を育成するため、問題解決の力を養い、主体的に問題解決しようとする態度を培うとともに、自然の事象・現象について理解を図り、観察や実験に関する基本的な技能を身に付けられるようにしたい。

○指導改善のポイント

物質

○目的に応じて器具や機器を選択し、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けることができるようにする

- ・どの器具や機器を使用するとよいかについて、操作の手順と併せて考えることができるようにすることが重要である。例えば、多くの器具の中で目的に合うメスシリンダーを選択するために、その役割や目盛りの読み方を確認した上で、はかり取りたい水の量より少ない水の量を最初に入れる理由や、足りない分の水を入れる際、スポイトの先が水の中に入らないようにする理由を話し合い、確かめ合う学習活動が考えられる。

エネルギー

○観察、実験などで得た結果について分析して、解釈し、より妥当な考えをつくりだすことができるようにする

- ・結果を事実として分析して、解釈し、それを結論の根拠として表現できるようにすることが重要である。結果の具体的な数値や、それを分析した内容などを根拠として表現する場面の設定が大切である。

生命

○知識をより深く理解できるようにする

- ・複数の対象について調べ、調べたことを関連付けることができるようにすることが重要である。予想や仮説を基に、視点を明確にして調べ、関連付ける場面の設定が大切であり、例えば昆虫の体のつくりについて、頭・胸・腹といった部分に着目して見いだした問題を解決する中で、タブレット型端末などを活用しながら、複数の昆虫の体のつくりについて関連付けて説明し、理解を深める学習活動が考えられる。

地球

○問題を解決するまでの道筋を構想し、解決の方法を発想することができるようにする

- ・予想や仮説を基に解決の方法を発想する際に、結果を見通すことができるようにすることが重要である。問題に対して根拠のある予想や仮説を発想し、自分の考えだけではなく他者の予想も捉え、予想が確かめられた場合に得られる実験の結果を見通して、解決の方法を発想し、観察、実験などを行う場面の設定が大切である。

小学校【児童質問紙からみた傾向】

本市の児童の調査結果については、全国・神奈川県とほぼ同程度の結果でした。

全国・県よりも、◇はよいと思われるところ、◆はやや課題であると思われるところ

◇「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」との問いに対して、「当てはまる」と答えた児童の割合が多かった。

これは「豊かな心を育むひまわりプラン」の「こんな大人になってほしい」にある「自分のよさを大切にし、健康で自立した生活を送る」や、座間市の教育大綱にある8つの施策で1番に挙げられている「思いやりと規範意識を育む豊かな心の育成」にある「個々の子どもの実態に応じた丁寧な指導を行うとともに、いじめや不登校などの教育課題の改善に努めます。」という点が実践されている結果といえるのではないかと思います。

学校・保護者・地域が一体となった教育が展開されていく中で、個々の子どもたちが自分のよさを大切にし、周囲の大人たちがそれを認めることで子どもたちが自信をもって生き生きと生活していけるようになります。自分のよさを大切にするには、相手のよさを大切にするにもつながります。このような心が多くの子どもたちの中に育まれていけば、愛ある人づくり・まちづくりが加速し、そこに生きる人々の知恵も大きく豊かに膨らんでいくものと思われます。今後も力を入れて取り組んでいきたい大切なポイントです。

◇「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている。」と答えた児童の割合が多かった。

本市の小学6年生の携帯電話・スマートフォンやコンピュータの利用率は全国よりも高い状況にありますが、各家庭でそれらの使い方について約束を決めていること、その約束を守っている児童が多いことが伺えます。引き続き、フィルタリング機能や時間・使用制限機能などを有効に活用しながら、日頃から子どもの使用状況を見守ることが大切です。

◇「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」との問いに対して、「当てはまる」と答えた児童の割合が多かった。

座間市教育大綱の施策(2)「書く力の向上を中心とする確かな学力の育成」には「学校では『主体的・対話的で深い学び』の実現に向け、指導方法の工夫や内容の改善に取り組み、わかる授業の充実を推進し、同時に主体的に学ぶ態度を育て、学習の基礎・基本を定着させます」とあります。

様々な教科の授業の中で児童がそれぞれ自分の考えをまとめ、意見を交換する授業が積極的に取り入れられている中、児童は自分と違う意見を聞く機会が多くなっています。自分と違う意

見に対して否定的に捉えるのではなく、違いを「楽しい」と感じられるということは相手を思いやる心や多様性を受け入れる姿勢も育まれているのではないかと思います。

多様化していく社会の中で、このような柔軟な心の育成は今後も大切にしていきたいと考えています。

- ◆「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。」との問いに対して、「3時間以上」と答えた児童の割合がやや多かった。

平日にテレビゲーム等を長時間行うことは、放課後の学習時間の不足や生活リズムの乱れにつながります。「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている。」と答えた児童の割合は比較的高いことを踏まえて、家庭で、平日の携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、今一度、親子で確認し合う機会を設け、子どもが放課後の時間を有意義に過ごせるようにしましょう。

- ◆「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」との問いに対して、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と答えた児童の割合が多かった。

この問いは、これまでも課題となっていた内容ですが、近年は特に、新型コロナウイルス感染症対策のため、様々な行事やイベント等が中止になり、子どもたちが地域の行事に参加できない状況にあったことが大きな要因と考えられます。

徐々に地域の行事も再開され、今年度からはコミュニティ・スクールが全校で導入となりました。コミュニティ・スクールでは、学校と家庭と地域が「子どもたちの豊かな心を育てる」という共通の目標に向かって、連携・協働しながら教育活動を展開していくことができます。

地域の皆さんの積極的な参画により、子どもたちの学びや体験活動が充実し、地域とのつながりが深まることが期待されています。

中学校 国語

本市の生徒の調査結果（平均正答率）は、全国・神奈川県とほぼ同程度の結果でした。

全国・県よりも、◇はよいと思われるところ、◆は課題であると思われるところ

○学習指導要領の内容および設問から見た傾向や課題

[知識及び技能]

言葉の特徴や使い方に関する事項

◆文脈に即して漢字を正しく書くことにやや課題がある。

[思考力、判断力、表現力等]

話すこと・聞くこと

◇自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことはおおむね良好な結果である。

◆聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫することにやや課題がある。

書くこと

◆自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことにやや課題がある。

読むこと

◆場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることにやや課題がある。

【育てたい力】

社会生活における人との関わりの中で伝えあう力を高め、思考力や想像力を育てたい。

伝えあう力を高めることで、人間と人間との関係において、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり適切に表現したりできるようにする。また、思考力や想像力を養うことで、言語を手掛かりとしながら論理的に思考したり、豊かに想像したりできるようにする。そうして育まれた思考力や想像力を新たな発想や思考を創造する力につなげたい。

○指導改善のポイント

言葉の特徴や使い方に関する事項

○漢字を正しく用いる態度と習慣を養う

- ・漢字の書きについては、文や文章の中で使い慣れる必要がある。そのため、文章の中ばかりではなく、「A話すこと・聞くこと」の学習の中や、他教科等の学習や日常の会話の中 でも漢字の書きについて意識するようにすることが大切である。また、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養うことも大切である。その際、必要に応じて辞書を引くことを習慣付けることが有効である。

話すこと・聞くこと

○聞き手を意識し、自分の考えが分かりやすく伝わるように工夫する

- ・自分の考えを話す際には、場の状況や聞き手の興味・関心、情報量などを考慮しながら、聞き手に応じた語句を選択したり、呼びかけや問いかけをしたりするなどして、相手に分かりやすく伝わるように表現を工夫することが大切である。

例えば、複数のスピーチを比較し、それぞれの話し方の工夫について確かめるなどの学習活動が考えられる。その際、ペアやグループでそれぞれのスピーチを比べたり、他学年のスピーチの動画を視聴したりして、分かりやすく伝えるための具体的な工夫について考えるように指導することも重要である。

書くこと

○考えの根拠が明確になるように情報を引用して書く

- ・意見文を書く際には、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にすることが大切である。そのためには、まず、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確かめることが必要である。その上で、自分の思いや考えを繰り返すだけではなく、根拠を文章の中に記述する必要があることを理解して書くことが重要である。

読むこと

○文章の展開に注意しながら、叙述に即して文章の内容を把握する

- ・文学的な文章を読む際には、文章の中の時間的、空間的な場面の展開、登場人物の相互関係や心情の変化、行動や情景の描写などに注意しながら読み進めることが大切である。その際、細部の描写にも着目しながら物事の様子や場面、行動や心情などの変化を丁寧に捉えていくことが有効である。例えば、心情を表す言葉を取り上げてその変化をたどったり、叙述の細かな違いに注意して読み、それぞれの叙述が表している心情の違いを考えたりする学習活動が考えられる。

中学校 数学

本市の生徒の調査結果（平均正答率）は、全国・神奈川県とほぼ同程度の結果でした。

全国・県よりも、◇はよいと思われるところ、◆は課題であると思われるところ

○領域および設問から見た傾向や課題

数と式

- ◆自然数を素数の積で表すことに課題がある。
- ◆目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。

図形

- ◇証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解することはおおむね良好な結果である。
- ◆反例の意味を理解することにやや課題がある。

関数

- ◆事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することにやや課題がある。

データの活用

- ◇箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることはおおむね良好である。
- ◇データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することはおおむね良好である。

【育てたい力】

数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、これらを活用して問題を解決するために必要な数学的な思考力、判断力、表現力等を育てたい。

また、数学のよさを知り、数学と実社会との関連についての理解を深め、数学を主体的に生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりするなど、数学的に考える資質・能力を育てたい。

○指導改善のポイント

数と式

○自然数を素数の積で表すことができるようにする

- ・整数の性質について理解を深める場面において、整数を様々な視点から捉えることができるようにするために、自然数を素数の積で表すことが大切である。

○事柄が成り立つ理由を、構想を立て、根拠を明確にして説明できるようにする

- ・事柄が一般的に成り立つ理由を、構想を立てて説明する場面を設定し、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにできるように指導することが大切である。

図形

○反例の意味を理解できるようにする

- ・命題や幾つかの場合から推測した事柄について考察する場面では、命題や事柄が常に成り立つことを説明するだけでなく、常に成り立つとは限らないことも説明できるようにすることが大切である。また、常に成り立つとは限らないことを示すには反例を一つあげればよいことや、反例は命題の仮定を満たしているが、結論を満たしていない例であることを理解できるように指導することも大切である。

関数

○問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるようにする

- ・様々な問題を、数学を活用して解決できるようにする際に、問題解決の方法に焦点を当て「用いるもの」とその「使い方」について考え、説明できるように指導することが大切である。その際、実際に行った解決の過程を振り返り、そのときに用いた方法について、「用いるもの」とその「使い方」の両方を指摘し、的確に説明できるように指導すること大切である。

中学校 理科

本市の生徒の調査結果（平均正答率）は、全国・神奈川県とほぼ同程度の結果でした。

全国・県よりも、◇はよいと思われるところ、◆は課題であると思われるところ

○領域および設問から見た傾向や課題

エネルギー

- ◆「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うためのグラフを作成することにやや課題がある。

粒子

◇液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な現象について、状態変化に関する知識及び技能を活用することはおおむね良好な結果である。

◆化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式に表すことにやや課題がある。

◆水を電気分解して発生させた水素を燃料として使う仕組みを探求する学習場面において、粒子の保存性の視点から化学変化に関わる水の質量が変化しないことを分析して解釈することに課題がある。

生命

- ◆アリの行列のつくり方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことにやや課題がある。

地球

- ◆玄武岩の露頭で化石を観察する場面において、岩石に関する知識及び技能を活用することにやや課題がある。

【育てたい力】

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指している。

そのような資質・能力を育成するため、日常生活の様々な場面で理科の知識及び技能を活用し、比較することで問題を見いだしたり、複数の事物・現象を関係付けて根拠を示すことで課題の解決につなげたり、原因と結果の関係といった観点からその過程を振り返ったりするなどして、科学的に探究する力を育てたい。

○指導改善のポイント

エネルギー

○課題に正対した考察を行うために適切なグラフを作成できるようにする

- ・ばねを押し力の大きさとばねが縮む長さの関係を科学的に探究するには、課題に正対した考察を行うために適切なグラフを作成する技能を身に付けることが大切である。例えば、課題に立ち返りながら考察を行うために、どのようにグラフを作成すればよいかを検討する学習場面を設定することが考えられる。その際、グラフの横軸である「変化させる量」と縦軸である「変化した量」が何に当たるかを考え、グラフを作成することが重要である。

粒子

○原子や分子のモデルを基に、化学変化を化学反応式で表すことができるようにする

- ・身近な現象を科学的に探究するには、原子や分子のモデルを基に、身近に見られる化学変化を化学変化式で表すことが大切である。例えば、身近に見られる化学変化を原子や分子のモデルで微視的に現象を捉えることで、化学変化に関係する原子や分子の種類や数に関することを可視化して理解することが考えられる。その際、原子や分子のモデルを基に化学変化を化学反応式で表す活動を通して、粒子のモデルで表す有用性を実感できるようにすることが大切である。

生命

○実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるようにする

- ・観察、実験の結果を分析して解釈する上で、課題で明らかにしようとしていることは何かを意識して考察することが大切である。そこで問題8(1)のように、アリの行列のつくり方に問題を見だして設定した課題と考察が正対しているか、考察の根拠は明確かなどの検討を促す学習場面を設定することが考えられる。その際、具体例を示しながら根拠を基に考察を繰り返すことで、課題に正対した考察を行うことができるようになることが期待できる。

地球

○岩石に関する知識及び技能を活用し、化石が含まれる可能性の有無を判断できるようにする

- ・身近にある岩石に化石が含まれる可能性の有無について、岩石に関する知識及び技能を活用して判断することは、理科を学ぶことの意義や有用性を実感する上で大切である。その際、地域にどのような岩石が分布しているかを調べ、身に付けた岩石に関する知識及び技能を活用して、化石が含まれる可能性の有無を判断する学習場面を設定することが考えられる。また、岩石を観察して、その組織から火成岩を堆積岩に分類し、化石が含まれる可能性を考えるようにすることも重要である。

中学校【生徒質問紙からみた傾向】

本市の生徒の調査結果については、全国・神奈川県の結果とほぼ同様でした。

全国・県よりも、◇はよいと思われるところ、◆はやや課題であると思われるところ

- ◇「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた。」と答えた生徒の割合が多かった。

中学校では、小学校で培われた「自分なりに考えていることや、感じていること等を、わかりやすく相手に伝わるように発表する」力をさらに伸ばしていくことが必要です。自身の思いを正確に相手と伝え合うことは、自己有用感も育てます。

また、座間市教育大綱の中で取り上げられている「書く力の向上を中心とする確かな学力の育成」の観点からも、順序を整理し、より効率的・効果的に伝えることは、文章の構成力の向上とともに、書く力の向上にも結びつきます。このような日常的な取組が、生徒の自立した学校生活の土台づくりにもつながっていると思います。

- ◇「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれぐらいの時間、勉強しますか（塾、家庭教師を含む）。」との問いに対して、「3時間以上」と答えた生徒の割合が多かった。

第2期座間市教育大綱では、新たに「家庭教育への支援」を施策の一つに掲げています。家庭教育がすべての教育の出発点であると認識し、学校や地域と連携しながら、家庭の教育力の充実に必要な取組について支援していきます。

生徒は、部活動や習い事など日々慌ただしく過ごしていると思われませんが、学習する習慣をしっかりと身につけていくことは、成長著しいこの時期に大切なことです。今後も時間を有効活用し、充実した学習時間の確保を継続してお願いいたします。

- ◇「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている。」と答えた生徒の割合が多かった。

本市の中学3年生の携帯電話・スマートフォンやコンピュータの利用率は全国よりも高い状況にありますが、各家庭でそれらの使い方について約束を決めていること、その約束を守っている生徒が多いことが伺えます。引き続き、フィルタリング機能や時間・使用制限機能などを有効に活用しながら、日頃から子どもの使用状況を見守ることが大切です。

生徒が ICT 機器に触れる機会が増加していることから、より一層の情報モラルの育成が必要です。学校では、教育活動全般において情報モラル教育に積極的に取り組んでいます。ご家庭でも、機会を捉えて情報モラルやマナーの育成に取り組んでいただきたいと思います。

- ◆「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。」との問いに対して、「3時間以上」と答えた生徒の割合がやや多かった。

平日にテレビゲーム等を長時間行うことは、放課後の学習時間の不足や生活リズムの乱れにつながります。「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている。」と答えた生徒の割合が比較的高いことを踏まえて、子どもが放課後の時間を有意義に過ごせるように、家庭で平日の携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、今一度、親子で確認し合う機会を設けていただければと思います。

- ◆「今住んでいる地域の行事に参加していますか」との問いに対して、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と答えた生徒の割合が多かった。

この問いは、これまでも課題となっていた内容ですが、近年は特に、新型コロナウイルス感染症対策のため、様々な行事やイベント等が中止になり、子どもたちが地域の行事に参加できない状況にあったことが大きな要因と考えられます。

徐々に地域の行事も再開され、今年度からはコミュニティ・スクールが全校で導入となりました。コミュニティ・スクールでは、学校と家庭と地域が「子どもたちの豊かな心を育てる」という共通の目標に向かって、連携・協働しながら教育活動を展開していくことができます。

地域の皆さんの積極的な参画により、子どもたちの学びや体験活動が充実し、地域とのつながりが深まることが期待されています。